



奈良県知事

荒井 正吾

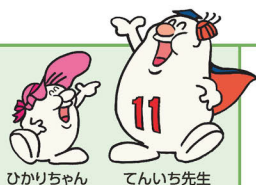
今月の特集は、「災害は奈良にもやって来ます～大切な人の命を守ろう～」ですが、今、我々は、見えない敵「新型コロナウイルス」と闘っています。人類にとって新しい敵であり、本県でも毎日必死の思いで作戦を練りながら対処しています。医療従事者の方々や県民の皆さまの絶大なご協力のもと、県民の皆さまの命を守ることを最大の使命として、日々感染拡大防止に努めています。経済への打撃もたいへん大きいですが、この嵐が静まれば、経済の海へ再び元気に舟を漕ぎ出したいと思っています。

過去の災害は、その被害だけでなく、大きな教訓も残すのが通例です。過去の災害から多くの教訓を学び、次の災害に備えることが人類の智慧です。今回の新型コロナウイルスからも、人間の社会や経済のあり方、防御の仕方など多くのことを学び、次の新たな敵の襲来に備えるべきと思っています。

「新型コロナウイルスには、絶対に負けない。」との強い信念を持ち、その被害からできる限り早く立ち直るとともに、今回のケースで学んだことを今後の奈良県の安全と繁栄に最大限活かすことができるよう、智慧と工夫を凝らしたいと思います。

毎月11日は人権を確かめあう日

人権 コーナー



ひかりちゃん てんいち先生

男性の育児休業について考える

少し前になりますが、小泉進次郎環境大臣が取得することで「男性の育児」が話題になりました。最近、国民を問わず、男性の育児休業取得を進める動きが増えてきました。しかし、男性の育児休業取得率(平成30年度)は国家公務員12.4%、民間企業では6.16%で、政府目標の13%(令和2年)を達成するにはまだまだ取り組みが必要です。

県が令和元年度に実施した調査によると、奈良県では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに肯定的な人の割合は42.9%でした。だんだん低くなってきているものの、全国平均よりは高い状況となっています。このような意識は、育児は妻が取得するものであるという固定観念や、夫が育児を取得して

も、家にいるだけで家事・育児は妻に偏ったまま…、という状況につながっているのではないのでしょうか。

男性の育児は男女の役割分担について、考えるきっかけになるかもしれません。子育てという大事業を男女が協力して取り組む社会に向けて、新しくパパ・ママになる人だけでなく、それを支えるみんなで話し合ってみませんか？

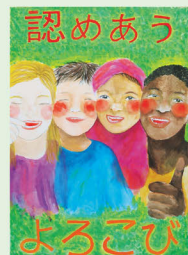
今月の標語

ありのまま
私の色で
凜と咲く

県立高等養護学校 2年
やぶなか しょう
藪中 翔さん

※学校名・学年・氏名は発表時のものです。

今月のポスター



王寺町立王寺南中学校 3年
きた わ か こ
北 和果子さん

クイズ&プレゼント

正解者の中から抽選で

記紀・万葉プロジェクトグッズ

(トートバッグ・はんかち・しおり・ノート・せんとかんのバッジ)

をセットで5名にプレゼント!

締め切りは6月30日(消印有効)



○にあてはまる文字を教えてください。

Q 6月は何の防止月間?

A ○○○○防止月間

ヒントは
2ページ

4月号の答えは“5609”でした。応募総数396件。

ハガキにクイズの答えと、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。
④www.pref.nara.jp/30222.htmからも6/1以降応募できます。
※個人情報、プレゼントの発送以外には使用いたしません。